

■大反響のジャパンデー、ミラノ万博は会期後半へ

ミラノ万博開幕より3ヶ月が経ち、会期後半に突入しました。前号「ジャパンデー特別号」でお伝えのとおり、7月11日、日本のナショナルデーである「ジャパンデー」が盛大に開催されました。日伊代表団を迎えた公式式典に始まり、大迫力の「東北復興祭りパレードinミラノ万博」、きゃりーぱみゅぱみゅさん他の公演で盛り上がった「JAPAN DAY スペシャルライブ2015」、国内外VIPに日本の多様な食を披露したレセプションと、まさに万博会場を日本一色に染めた一日となり、イタリア側の万博主催者からも「これほどまでに盛り上がったナショナルデーはかつてない」との言葉を頂きました。

ジャパンデーの様子は現地報道でも大きく取り上げられ、イタリアの国営放送RAIでは「東北復興祭りパレードinミラノ万博」が生中継され、「JAPAN DAY スペシャルライブ2015」の様子も放送されたほか、大手全国紙コリエレ・デラ・セーラが紙面で大々的に取り上げ、「日本の伝統を見せるパレードが観客を魅了」「日本人の心ともいえる“和”の精神が十分に反映されていた」といった好意的な論調で報じられました。

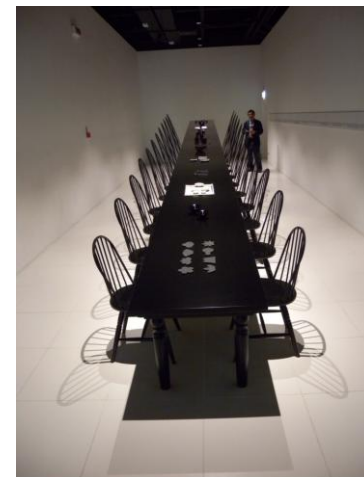


▲7月11日 RAIでの放送



▲7月12日付コリエレ・デラ・セーラ

■ 日本館サポーター活動紹介



・ きゃりーぱみゅぱみゅさん

「JAPAN DAY スペシャルライブ 2015」に出演頂いたきゃりーぱみゅぱみゅさんが、ジャパンデー前日に来館されました。「日本館の展示はわかりやすく面白かった」との感想を頂き、訪問の様子は多数メディアでも取り上げられました。

・ 日本を代表する料理人が集結

ジャパンデーレセプションでは日本を代表する料理人によるドリームチームが実現。菊乃井の村田吉弘さんをはじめ、日本館サポーターの料理人の皆さんも多数参加され、特別に用意した本格和食メニューに各地の郷土料理などを加えた多彩な日本料理を振る舞って頂きました。（写真は村田さんと、同じくサポーターの服部幸應さん）



・ 附田 祐斗さん

人気マンガ「食戟のソーマ」原作者の附田祐斗さんが取材のため来館されました。7月13・18日発売の「週刊少年ジャンプ」で日本館をご紹介頂きました。



・ 青木 定治さん

日本を代表するパティシエ、青木定治さんが日本洋菓子協会連合会のイベントにご出演されました。今川焼きとマカロンを組み合わせた創作菓子作りを実演頂きました。



・ 藤本 智子さん

“ミソガール” 藤本智子さんが、NPO法人モータースポーツ子ども支援協会によるイベントに参加されました。味噌ボール作り体験などを行い、味噌の素晴らしさを発信されました。

・ 弘兼 憲史さん

漫画家で「島耕作」シリーズ作者の弘兼憲史さんが来館されました。「日本らしい、最新の技術と伝統的な文化を融合した丁寧な展示で大変興味深かった。とくに、最後に用意されている展示は日本の食をテーマにした参加型のショーのような形式で、なかなか飽きさせない作り。その後、外に出ると万博会場に出店された日本の外食店のレストランブースになっていて、思わず腹の虫が鳴りました」とのコメントを頂きました。

■ 日本館特別大使ハローキティ活動紹介

日本館特別大使のハローキティが日本館のPRのため大活躍しています。ジャパンデーでは「東北復興祭りパレード」のほかレセプションに登場。7月25日には日本館菰樽前で撮影会イベントを行いました。希望する来館者にコシノジュンコ氏デザインの法被を羽織って頂き、キティとともに日本の夏の雰囲気を楽しんで頂きました。



■ 日本館にご来館頂いた方々



・ 竹下 景子さん

2005年の愛・地球博で日本館総館長を務められた女優の竹下景子さんが、写真家の関口照生さんにご夫婦でご来館されました。



・ でんば組. i n cさん

秋葉原で人気のアイドルグループ「でんば組. i n c」さんが取材のためご来館されました。ご来館の様子は7月7日の「おはスタ」で放送されました。



・ 吉本ばななさん

小説家の吉本ばななさんが、女性の視点で食を見直すプロジェクト「Women for Expo (WE)」に参加され、日本館にもご来館頂きました。吉本さんは同プロジェクトで制作された本「Novel of the World」のため短編小説を書かれており、イタリア館で朗読会も行われました。

■ イベント広場 7月開催の様子



- ①「食と祈りの食卓」(7月1～4日) 三重県
- ②「和歌山県の日 ～The Origin of Washoku and Travel～」(7月5日～7日) 和歌山県
- ③「JAグループ 日本の「食」と「農」の紹介」(7月9～15日) JAグループ
- ④「Feel Hyogo, the Taste of Japan!」(7月16～19日) 兵庫県／ひょうごの美味し風土拡大協議会
- ⑤「OBAMA DAYS ～日本食文化 小浜から世界へ～」(7月20～23日) 小浜市(福井県)
- ⑥「東北×イタリア 食と文化のマリアージュ」(7月24～27日)
2015年ミラノ国際博覧会・東北出展委員会
- ⑦「日本のお正月 ～お正月に見る日本の食文化～」(7月28～31日)
JTAAジャパンテーブルアーティスト協会

■ミラノ万博関連ニュース

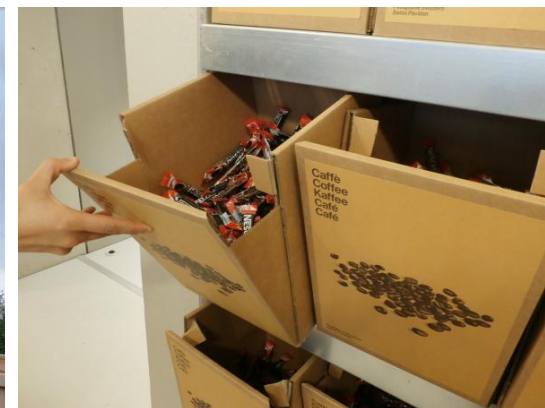
・万博チケット販売枚数、目標来場者数の半数に達する見込み

ミラノ万博公社の発表によると、7月15日現在、これまでに販売・発行された入場チケットは900万3000枚に上ります。これは、万博公社の想定総来場者数である2000万人の約半数に相当します。また、イタリア大手新聞社コリエレ・デラ・セーラの報道によると、ミラノへの訪問者数は21%増（2010～2014年比）、市立博物館の来館者数は54.3%増（2014年比）となったほか、宿泊施設の稼働率は78%、新規開店した飲食店は194軒に上るとして、万博による好影響を指摘しています。

・パビリオン紹介

●スイス館

スイス館の敷地には4本の塔が立っており、各塔の内部の壁面には「コーヒー」「りんご（スライスした干しりんご）」「塩」「水」が設置されています。4つの食品は、来館者が好きな分だけ持ち帰ることができ、これらが減ると全ての塔の階層が下がっていく仕組みとなっています。来館者は各食品を自由に持ち帰ることができますが、会期中に補充されることはないため、後から来る来場者のことを考えて取るよう促されます。自分だけでなく、未来のことも考えながら消費する。これがパビリオンのコンセプトです。



●VINO a taste of Italy (ワイン・パビリオン)

イタリア人の建築家イタロ・ロータ氏の設計によるこのパビリオンは、香り、色、味覚という感覚を旅する構成となっており、来館者はワインがボトルングされるまでの各工程を疑似体験することができます。目玉は、イタリア全土から集められた1,000を超える種類のワインを展示した「ENOTECA DEL FUTURO（未来のワインショップ）」で、10ユーロで3種類、ソムリエによる案内とともにテイスティングすることができます。

